

科目	環境化学 (Environmental Chemistry)		
担当教員	根津 豊彦 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-2(50%) D1(50%)	JABEE基準1(1)	(b),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	工業技術の進歩は我々の生活に多大な貢献をもたらしてきたが、一方では地球を構成している物質系のバランスを崩す結果ともなった。その影響は地域的のみならず地球規模へと拡大している。また合成化学物質や非意図的に生成した化学物質による生態や健康に対する影響も重大な問題となっている。本講義では、これら環境問題についての実態とそれらのもたらす影響について正しく理解することにより、原因と対策について考察する。また環境に対する技術者の任務を考える。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【D1】過去に発生した公害問題事例を学びそのもたらした影響について理解する。		過去に発生した公害問題とそのもたらした影響についての理解について、中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-2】わが国における大気、水質環境中の汚染物質濃度の現状と発生要因、対策について理解する。		わが国における大気、水質環境中の汚染物質濃度の現状と環境基準値達成率、汚染物質の発生要因とその対策方法についての理解を中間試験で評価する。
3	【A4-2】地球規模で環境影響を及ぼす代表的な汚染物質の汚染メカニズムについて理解する。		二酸化炭素による大気の温暖化機構、オゾン層破壊の機構、酸性降下物の生成機構等についての理解を中間試験で評価する。
4	【D1】合成化学物質、非意図的に生成した化学物質による健康影響について理解する。		ダイオキシン類や環境ホルモン物質になりやすい、有機塩素化合物の実態、非意図的に生成した物質であるダイオキシン類の発生対策及び健康影響についての理解を定期試験で評価する。
5	【D1】環境に対する技術者の任務を考える。		環境保全について、技術者としてまた環境の中の一員として自分たちの役割に関する考えをまとめ、レポートにより評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80%、レポート20%として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「環境科学」 金原 稔 監修 (実教出版) 「プリント」		
参考書	「環境 循環型社会白書」 (環境省 編)		
関連科目	分析化学、無機化学		
履修上の注意事項	分析化学、無機化学をしっかりと履修しておくことが望ましい。環境問題に関するメディアに対して常に関心を持ってほしい。		

